茅ヶ崎市
新任期保健師（１年目）育成の手引き

令和７年４月

茅ヶ崎市

目次

１　茅ヶ崎市保健師の保健活動として目指すもの..... 1
２　目的 1
３　「新採用職員指導の手引き」と「茅ヶ崎市新任期（1 年目）育成の手引き」の関連性 1
４　指導体制 2
(1) プリセプターの役割..... 3
(2) メンターの役割..... 4
(3) 統括保健師及び副統括保健師の役割..... 4
(4) その他 4
５　到達目標及び行動目標等..... 5
６　新任期保健師の技術指導方法と新任期保健師育成計画..... 5
(1) 技術指導方法..... 5
(2) 新任期保健師育成計画..... 5
７　専門性能力の自己評価等..... 6
８　研修 6
資 料 編 6

１　茅ヶ崎市保健師の保健活動として目指すもの

本市では、令和３年３月に策定した「茅ヶ崎市保健師の保健活動に関する指針」に基づき保健師が保健活動を展開していく際に、“茅ヶ崎市に暮らす人がその人らしく、心豊かに生活できる”ことを目指していきます。

２　目的

保健師が現場で必要とされる実践的かつ専門的能力と、基礎教育で修得する能力との間には乖離があります。また、新採用職員のなかには、さまざまな職歴を持つ方もいます。そのため、各個人の能力に応じた新任期保健師[1)]に求められる専門的能力の獲得及び資質向上を図り、その力が発揮できるように、新任期保健師の到達目標や指導方法、人材育成の仕組みを構築していく必要があります。

本手引きでは、新任期保健師のうち、採用一年目の保健師を対象に到達目標及び育成計画等について記載し、新任期保健師と指導にあたる保健師の双方が活用できるものとしました。

さらに、統括保健師・統括保健師補佐（以下「統括保健師等」という。）や新任期保健師の育成にかかわる保健師等の役割を明記し、人材育成を所属全体で行うための、組織的な指導体制を示しました。

３　「新採用職員指導の手引き」と「茅ヶ崎市新任期保健師（1 年目）育成の手引き」の関連性

新任期保健師には、行政職としての能力に加えて、保健師としての専門的能力が求められます。そのため、総務部職員課の「新採用職員指導の手引き」で明記している新採用職員の指導に加えて、新任期保健師指導を行います。

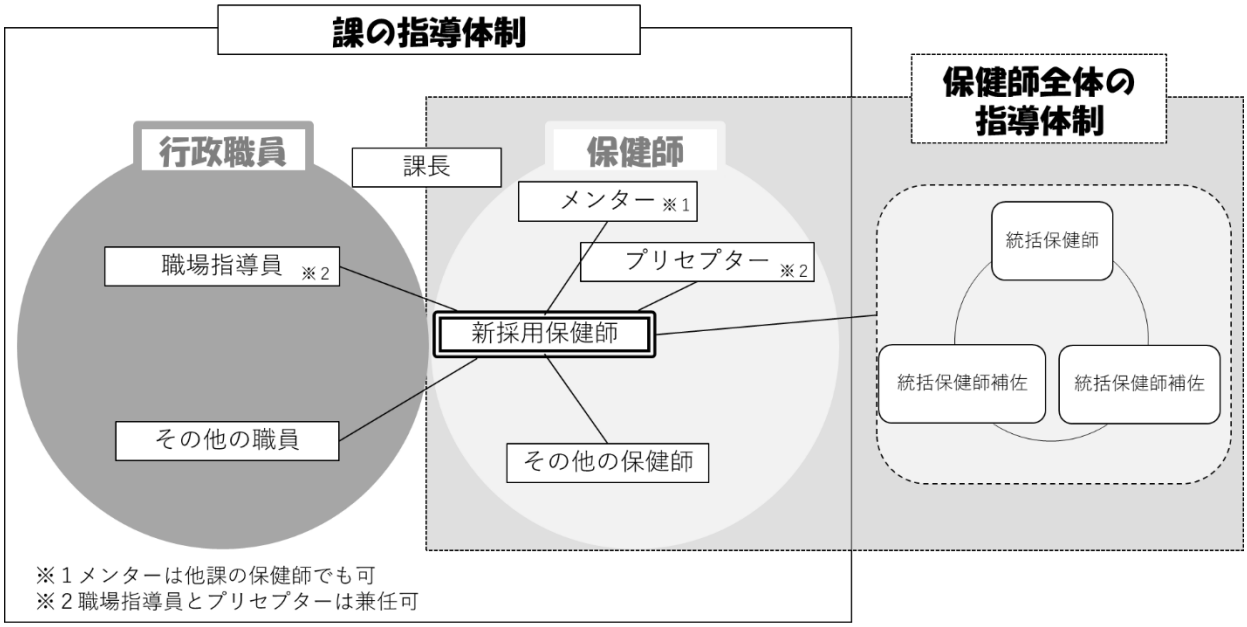
---

1) 新任期保健師とは、新卒・既卒を問わず、入庁１～３年目の保健師をいいますが、本手引きにおける新任期保健師は、入庁１年目の保健師のことを意味するものとします。

４　指導体制

新任期保健師の専門的能力の獲得状況や入職前の職業経験等により、各個人によりプリセプターシップとメンターシップを組み合わせた指導体制とします。

プリセプターシップとは、新任期保健師と指導保健師（以下、「プリセプター[2)]」という。）が同じ勤務を行い、マンツーマンで指導にあたる制度のことです。また、メンターシップとは、新任期保健師に対して援助、指導、助言をし、相談にのる支援者的役割を意味し、この役割は専門性面接の面接者である保健師（以下、「メンター[3)]」という。）が担います。入庁して間もない新任期保健師は、庁内での決まりごとや所属課における本市保健師としての知識や実務経験が十分でないため、特に周囲の支援が非常に重要です。統括保健師等をはじめ新任期保健師の所属課職員においても、見守りや助言を行うなど庁内全体で育成指導していきます。



【指導体制のイメージ図】

2）プリセプターとは、ある一定期間、１人の新人保健師に対してマンツーマンで関わる先輩保健師のことです。

3）メンターとは、新人保健師の味方となり、指導・助言し、相談にのる保健師のことです。本市では、メンターは専門性面接の面接者が担います。

(1)　プリセプターの役割

プリセプターは、以下の役割を担い、新任期保健師が自ら考え行動できるよう、身近で支えるキーパーソンとなります。

新任期保健師の職場指導員（総務部職員課の「新採用職員指導の手引き」で明記している所属課での指導員）をプリセプターとしますが、所属課によっては新任期保健師の職場指導員が保健師以外の職種である場合があります。その際は、必要に応じて所属課長にも相談し、統括保健師等やメンターとの協議により選任された保健師が、プリセプターの役割を担います。

①　育成のための環境整備

ア 組織の目標と新任期保健師の『新採用職員指導計画書』『新任期育成計画書』『茅ヶ崎市保健師の標準的なキャリアラダー評価表（以下「市キャリアラダー[4]評価表」という。）』における行動目標と整合性を持たせます。

イ 必要に応じて、所属課長及びメンター、統括保健師等に対象者の現状報告をします。

ウ 新任期保健師育成のための環境改善を提案します。

エ 必要に応じて、新任期保健師への助言、サポートをします。

②　新任期保健師の支援

ア 『新採用職員指導計画書』とは別に作成する、『新任期保健師育成計画書』は、新任期保健師の専門能力の獲得状況に応じて作成します。（実用的な業務の課題を準備、体験、カンファレンス等）

イ 新任期保健師と保健師としての行動目標を共有します。

ウ 新任期保健師の日常的な相談を受け、助言・支援します。

エ 新任期保健師への動機づけをします。

オ 専門性能力の獲得状況の確認をします。（改善が必要な行動の指摘）

カ 職歴のある方については、これまでの職務内容や経験をふまえ、獲得した知識を活かして力を発揮できるよう支援します。

③　所属課職員への協力依頼

ア プリセプター不在時には、必要に応じて所属課職員に本人への助言、サポートを依頼します。

イ 必要時には、所属課職員に指導協力について依頼をします。

4）茅ヶ崎市保健師の活動領域ごとに求められる能力を類型化しレベル別に整理したもので、能力レベルをＡ－１からＡ－５の５段階にわけており、「茅ヶ崎市保健師の人材育成ガイドライン」で令和３年４月に作成したものです。

(2)　メンターの役割

メンターは、専門性面接の評価者であるとともに、以下の役割を担い、新任期保健師の相談にのる支援者的役割を果たし、プリセプターとは別の保健師が担当します。

①　環境の整備

ア 必要時に応じて、所属課長、プリセプター、統括保健師等に対象者の現状報告をします。

イ 必要に応じて、新任期保健師の助言、サポートをします。

②　新任期保健師の支援

新任期保健師の中長期的なキャリア支援、動機付け、よき理解者として関わり、人間的な成長を支援します。

③　所属課職員への協力依頼

所属課職員には、必要に応じて助言やサポートの協力を依頼します。

(3)　統括保健師及び統括保健師補佐の役割

統括保健師等は、以下の役割を担い、プリセプター及びメンターへの支援を行います。

①　環境の整備

組織体制及びプリセプター、メンターの位置づけを明確にします。

②　プリセプター及びメンターへの指導と支援

新任期保健師育成の必要性について動機づけをします。

③　『新採用職員指導計画書』『新任期保健師育成計画書』の全体的な把握

必要に応じて、プリセプター又はメンターと連携しながら、新任期保健師の人材育成の状況を把握します。

(4)　その他

①　新任期保健師の所属するその他職員

担当業務等を通じ、必要に応じて新任期保健師への指導・支援・助言を行います。

②　保健所保健企画課保健師

保健師の人材育成に関する研修等の企画・運営を行います。

③　茅ヶ崎市庁内保健師活動連絡会

連絡会活動を通じて、新任期保健師を支援します。

５　到達目標及び行動目標等

新任期保健師の育成は、『市キャリアラダー評価表』のＡ－1において求められる能力をもとに、到達目標及び行動目標を明確にして組織全体で取り組み、評価する必要があります。

令和3年4月からは、人事評価制度に加えて、「茅ヶ崎市保健師の人材育成のための専門性面接運用マニュアル」に基づき、期首、中間、期末に管理職の保健師による専門性面接を行って、これまでの経験に配慮したキャリア支援も行っています。

新任期保健師は、標準的な到達目標及び行動目標、指導（習得）方法、その時期、達成状況をまとめて評価できる市キャリアラダー評価表を用いて達成状況を記入し、自己評価および専門性面接の評価者による他者評価を行っていきます。

６　新任期保健師の技術指導方法と新任期保健師育成計画

(1)　技術指導方法

住民を多角的に捉える上で重要である「相談」「家庭訪問・面接」「健康教育」「地域診断」は保健師活動の基礎となる技術となります。新任期保健師の技術指導方法の具体的な内容を別紙１に示しました。

技術指導方法の例は、到達目標、到達までの期間、保健師活動に関する技術を支える要素、研修方法、手順に沿った指導時の留意点、チェックリストで構成されています。また、新任期保健師がどこまで修得できているのかの確認をすることだけではなく、気をつけるポイント、プリセプター等にとって指導時のポイントが分かるように示しています。

(2)　新任期保健師育成計画（別紙２）

①　育成計画の必要性

○　新任期保健師

自分は何を、どの時期までに、どのような方法で理解し実践できるようになればいいのか明確になります。そのため、必要な自己学習の内容も確認することができます。

○　プリセプター及びメンター

指導内容や時期を把握し、新任期保健師に体験させる家庭訪問の事例や保健事業を

各課の年間（月間）事業計画と見合わせながら進めることができます。

② 新任期保健師育成計画書の作成

行政保健師として習得する基本的事項は、「新採用職員指導の手引き」にある『新採用職員指導計画書』に、『新任期保健師育成計画書』の指導項目として記載します。

7 専門性能力の自己評価等

新任期保健師は、「今年度の目標」（年度当初）と「自己評価」（年度当初・中間・期末の３回）を市キャリアラダー評価表に記入します。また、専門性面接前にカンファレンスなどで、新任期保健師とプリセプター（必要時、メンター）が一緒に話し合いながら目標や到達レベル等を確認します。そして、専門性面接時にメンターである面接者は、肯定的な視点で、できたところは認めます。また、課題となったところは、目標に到達するためにはこれからどうしていったらよいかを振り返って検討し、必要があれば経験が積める場の提案、能力獲得に向けた手段等を助言します。

8 研修

新任期保健師の専門性を身につけるための主な研修は、「茅ヶ崎市保健師の人材育成ガイドライン（令和３年３月）」資料編の別紙１『茅ヶ崎市保健師専門研修概要』に記載されているとおりです。

また、このような保健師研修等の場を保健師のＯＪＴ実践力の向上につなげる場としても位置づけ、研修をその前後のＯＪＴと連動させていきます。研修での学びを参加者とともに確認し、さらにそれを実践に生かすことができるよう、ＯＦＦＪＴや自己研鑽による研修実績も踏まえながら、統括保健師等や所属課の職員がサポートし、日常業務に効果的に活用できるようにします。

資 料 編

別紙１　採用１年目保健師の技術指導方法

別紙２　採用１年目保健師の新任期保健師育成計画書

別紙１

採用１年目保健師の技術指導方法

１　対人支援活動

１－１　個人及び家族への支援

「電話相談」技術指導方法

【到達目標】　○電話の内容を把握し、担当者につなぐことができる

○基本的な電話相談を一人で行うことができる

○個人及び家族の健康と生活について情報収集・分析し健康課題解決のための支援計画を立案できる

○指導を受けながら、個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援が実践できる

○支援に必要な資源を把握できる

【到達までの期間】６か月～１年

【行動目標】

・課内の事業が把握できる
・相談の技術を活用できる
・プライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる
・身体的・精神的・社会文化的・生活環境の側面から客観的・主体的情報を収集し、個人・家族の健康課題のアセスメントをすることができる
・潜在している健康課題を見出し、今後起こりうる健康課題を予測することができる
・健康課題について優先順位をつけて目標設定を行い、支援計画を立案することができる
・当事者の立場に立って、生活者の視点で対象を理解することができる
・対象者の話を聴き、コミュニケーションを取りながら信頼関係を築くことができる
・基本的な事例の訪問支援を行うことができる
　・個人・家族の持つ力を見出すことができる
　・健康回復に向けた支援を理解し、説明できる
　・健康危機への予防策を理解し説明できる
　・生命・健康、人間としての尊厳と権利を守る対応ができる
・支援の経過及び結果を正確に迅速に記録し、報告・保管ができる
・支援の評価を行い、次の支援に生かすことができる
・ケースカンファレンス等で、支援の計画、実施内容等の説明や意見を述べることができる
・活用できる社会資源について、情報収集をし、対象者等へ提供することができる

研修方法

	実施内容	助言のポイント
見学	① プリセプターや同僚保健師※の電話相談や窓口での対応に同席する。 ※プリセプター以外の先輩保健師	・電話相談や窓口での対応に同席を促す。 ・目的、対象者へ確認する内容を確認する。 ・相談終了後、相談の趣旨、相談のポイントなどを説明する。 ・記録方法の説明を行う。
上司同席	①電話をかける目的、ポイントをまとめ、プリセプターや同僚保健師に確認する。 ②プリセプターや同僚保健師が同席の上、電話をかける（受ける）。 ③自己紹介を行い、相談者の話を傾聴しながら相談の目的を確認(適宜、相槌を打つ、要点をまとめる)。 ④対象者の相談内容、様子（表情・口調等）からアセスメントを行い、保健指導、支援を行う。必要時関係機関を紹介する。 ⑤相談継続の有無を確認する。 ＊電話、訪問、相談時対応等の受け答えは「はい」などの敬語を使うよう心掛ける。 ＊対象者の話の内容をしっかりと把握すること。 ＊わからないことは曖昧にせず周りに聞くこと。 ⑥記録を作成する。記録の際、目的、相談のポイント、方針を明確に記入する。プリセプターや同僚保健師に報告する際は、要点をまとめて報告する。 ⑦慣れてきたら電話相談を一人で実施し、記録を作成し、プリセプターや業務担当保健師（健康相談）に報告する。	・プライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができているか ・事実を踏まえてアセスメントした結果、適切な保健指導が行えているか。 ・対象者の様子（表情・口調等）からアセスメントし、相談の真意をとらえているか。 ・不足している内容はないか。 ・用件のみ確認して切るのではなく、傾聴、受け止め等適切に行えているか。 ・電話の場合、顔が見えないため、集中して聞いているか。 ・最後まで責任を持って対応できたか（不明点は確認後折り返す等)。 ・記録に相談のポイントが記載されているか確認し、不足部分を指導する。 ・一人で抱え込まず、プリセプターや先輩保健師に相談しているか。
単独対応	①電話相談を一人で実施し、記録を作成し、プリセプターや業務担当保健師に報告する。	上記「上司同席」と同様。

「家庭訪問」「面接」技術指導方法

【到達目標】 ○担当地区の基本的な事例*の訪問や面接支援を一人で行うことができる

＊基本的な事例：正常分娩の新生児及び産婦、乳幼児健康診査未受診者、健康診査事後指導が必要な成人、慢性期の療養者（結核・精神・難病等)、独居の高齢者や高齢夫婦世帯を指す

○個人及び家族の健康と生活について情報収集・分析し健康課題解決のための支援計画を立案できる

○指導を受けながら、個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援が実践できる

○支援に必要な資源を把握できる

【到達までの期間】６か月～１年

【行動目標】

・担当地区の対象者の把握ができる
・訪問の優先順位を判断できる
・訪問対象者として選択した理由及び法的根拠を説明できる
・家族面接や相談の技術を活用できる
・プライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる
・身体的・精神的・社会文化的・生活環境の側面から客観的・主体的情報を収集し、個人・家族の健康課題のアセスメントをすることができる
・潜在している健康課題を見出し、今後起こりうる健康課題を予測することができる
・健康課題について優先順位をつけて目標設定を行い、支援計画を立案することができる
・当事者の立場に立って、生活者の視点で対象を理解することができる
・対象者の話を聴き、コミュニケーションを取りながら信頼関係を築くことができる
・基本的な事例の訪問支援を行うことができる
  ・個人・家族の持つ力を見出すことができる
  ・健康回復に向けた支援を理解し、説明できる
  ・健康危機への予防策を理解し説明できる
  ・生命・健康、人間としての尊厳と権利を守る対応ができる
・支援の経過及び結果を正確に迅速に記録し、報告・保管ができる
・支援の評価を行い、次の支援に生かすことができる
・ケースカンファレンス等で、支援の計画、実施内容等の説明や意見を述べることができる
・活用できる社会資源について、情報収集をし、対象者等へ提供することができる

研修方法　（本人）

内容	担当者	具体的な方法
事前学習	プリセプター	・学生時の教科書、テキストの再読。 ・基礎教育での知識と技術の確認を行う（地域看護実習の際の訪問対象や見学等の経験について確認）。
見学	プリセプター 同僚保健師	・見学によって、基礎教育での知識・技術の確認を行う。 ・基本的な事例だけではなく、指導者が継続訪問している事例の見学も行う ・その他、対応が複雑困難な対象者の訪問は、当面同行訪問を行う。 ・見学訪問の後半については、できる実技については、同行者とともに行う。その場合、手技については事前に確認を行う。 【学習内容】 ・訪問の必要性の判断・法的根拠 ・訪問前の情報収集・分析と健康課題の抽出 ・対象者との連絡・訪問計画の立案 ・対象者に応じた基本的支援技術 ・家庭訪問の実際、訪問後の報告と記録 ・事前事後の関係者との連携の実際 ・家庭訪問の機会を活用した地区踏査 ※準備するもの…対象に応じてそろえるものを選択する。（血圧計、ステート、体重計、身長計、地図、消毒液、車両の予約など）
振り返り	プリセプター 同僚保健師	・見学訪問終了ごとに、同行者とカンファレンスを行い、疑問に感じることを確認する。 ・主体で訪問支援ができるか確認する。 【学習内容】 ・観察・判断・計画修正の実際 ・対象者の自立状況のアセスメント ・継続支援の必要性の判断と次回の計画 ・関係機関やキーパーソンとの情報交換の方法 ・地域に出る機会を活用した関係づくりを学ぶ
ケースカンファレンス参加	プリセプター 同僚保健師	【学習内容】 ・先輩保健師が事例について話し合う場に参加し、困難事例への対処やチームで考える必要性を学ぶ

内容	担当者	具体的な方法
ロールプレイ	プリセプター 同僚保健師	・新人保健師主体の同行訪問の前にロールプレイを通して演習を行う 【学習内容】 ・訪問するケースを想定したロールプレイ ・電話対応、面接技術、計測や発達チェックなど対応の実際
同行訪問	プリセプター 同僚保健師	・対象者の選択・情報収集・訪問計画の立案に関して、助言を得ながら実施する 【学習内容】 ・対象者との時間調整や準備を単独で実施（電話連絡） ・対象者に応じた基本的支援技術の実施 ・指導者の助言を受けながら訪問を実施 ・訪問の記録を行い、チェックを受ける ・助言を受けて、必要な関係者に連絡
振り返り	プリセプター 同僚保健師	【学習内容】 ・準備・実施・事後処理のプロセスを振り返り、困難を感じた点及び失敗した点について助言を得る。 ・単独訪問が可能か確認する ・地域資源マップ等により社会資源の実際を把握
単独訪問	プリセプター 同僚保健師	【学習内容】 ・準備から結果報告までを一人で実施する ・基本的な事例から始め、継続訪問や他のサービスにつなげる事例を経験する ・基本的な事例以外の訪問は、同行訪問を行い、経験を積み上げ、プリセプターやメンターの判断を仰ぎ単独訪問を行う。 ・訪問時、対象者をとりまく地域環境を把握する
振り返り	プリセプター	【学習内容】 ・対象者の反応や住環境等、予測と実際との相違についての理解を深める ・準備・実施・事後処理のプロセスを振り返り、困難を感じた点について助言を得る ・プリセプターやメンターから、家庭訪問での失敗や地域を歩いて市民と出会う楽しさの語りを聞く
評価	プリセプター 同僚保健師	【学習内容】 ・個別面接を行う ・チェックリストを活用して自己評価を行い、プリセプターやメンターから助言を得る １回目：同行訪問後 ２回目：初回の単独訪問後 ３回目：継続訪問の実施後

指導手順と留意点(プリセプター)

手順	指導時の留意点
事前準備	○基本的な事例を選んで、単独に訪問できるよう技術の習得を目指す ○プリセプターが継続訪問している事例の中から見学訪問する場合、対象者の身体に触れることができ、新人が会話に参加できる事例を選ぶ ○家庭訪問等に実際に出ることが楽しいと思えるような指導を心がける ○新人保健師の学習状況の確認 ・家庭訪問の対象者とする根拠 ・基本的な訪問支援の技術 ・社会資源 ・関係機関との連携
1　ケース選択 (1) 担当地区の訪問対象者を把握する ・各種届出による対象者リストを確認する	○訪問対象者を把握する方法についての知識を確認する ・各種届出 ・健康相談・健康診査 ・市民や関係者からの依頼 ・感染症や災害等からの発生時 ・自治体での重点的取組み ・調査（栄養調査・実施調査・研究）
(2) 訪問の優先順位をつける ・訪問対象となった背景を把握する （法的根拠に基づくものか、本人の希望を受けて行うものか、本人は拒否していても必要と判断して行うものかを把握し、訪問の目的を理解する）	○優先順位がわからない場合はプリセプターに相談するよう伝えておく ○優先順位の判断に関する根拠を確認する 【家庭訪問の優先順位】 ① 生命の危険がある ② 依頼者や相談者の不安が強い ③ 周囲の人への影響が強い ④ 公衆衛生上の課題 ○緊急対応が必要な事例は、プリセプターの訪問に同行させて経験する等工夫する
2　訪問計画の立案 (1) 情報を収集・整理し、支援の方向性を検討する ○新生児・乳幼児の初回訪問時、事前情報	○基礎知識・技術を確認する ＊訪問計画に必要な基礎知識の例 ①新生児・乳幼児及び産婦の場合 ・発育（１日体重増加量・カウプ指数・身長体重曲線等）

手順	指導時の留意点
は少ないが、正常な発育発達を促進するような支援を検討する ○精神疾患・難病などの場合、病名、治療方針及び内容等を確認する ○アセスメント内容の統合と健康課題を抽出する	・発達（月齢・年齢の発達） ・栄養に関すること ・予防接種ほか保健サービス ・産後の心身の状況 ・家族機能 ②成人の場合 ・生活習慣病に関する基礎知識 ・健康診査結果の読取り ・職場の環境、生活スタイル ・行動変容や学習支援法 ③結核・精神・難病の場合 ・疾患の基礎知識 ・医療費助成等の保健医療福祉制度 ④高齢者の場合 ・加齢に伴う心身の変化 ・個人・家族の発達課題 ・疾病や薬剤に関する知識 ○対象別の知識や支援方法や保健医療福祉制度に関する情報を、既存資料やインターネットを活用して入手する
(2) 支援の目標と計画を立案する ○様々な状況を想定して、対応を計画 ・コミュニケーションが十分に取れない対象者の場合 ・拒否や暴力のある人の場合 ・本人に会えない場合	○収集した情報と分析結果を確認 ・情報収集先について助言する ・個人情報保護の観点を確認 ・アセスメントの方法について助言する (例)精神や難病の事例の場合 ・本人・家族の生活歴（病歴を含む）を時系列で整理することにより、病気が本人・家族に及ぼす影響、対処パターン、強みなどを見出すことができる ○アセスメント結果について、良い点はほめ、不足する点は助言する ○訪問計画について、実施項目が多くならないよう、時間配分や誰に会うか等を考えているか確認する ○初期の段階など必要時、ロールプレイで訪問場面をイメージする ・ロールプレイを行い、実際場面をイメージできるように促すとともに、訪問の流れ（開始から終了の挨拶まで）を考えるよう助言する

手順	指導時の留意点
	・各種資料を活用した説明や拒否された場合等の対応ができるよう、ロールプレイを行う ・新生児・乳児訪問の場合、児の抱き方、身体計測方法、衣服の着脱方法等を事前に確認する ・観察ポイントや母子健康手帳の活用方法を確認する
(3) 支援に必要な社会資源の情報を収集する ○現在活用している社会資源やネットワーク図を作成し、3か月後・6か月後など時間と共に変化するかを予測する	○社会資源について確認し、必要に応じて助言する ・関係機関と連携の必要な人の把握状況を確認する ・訪問前に連絡が必要か否かの判断を確認する
(4) 訪問時に持参する保健指導用教材を作成する ○対象や訪問目的に合わせた資料や保健指導に必要な媒体を準備する	○保健指導用教材の作成を行う ・年齢等、対象の特性を考慮しているか確認する ・既存の資料を用いる場合、個別性の付加が必要か否かを確認する
3 訪問日時の決定 (1) 対象者の連絡先に電話をかける ○自分の所属と氏名を名乗る ○訪問の目的を説明し、対象者との共通理解を得る ○対象者のニーズの確認を行う (2) 訪問の目的を約束する ○電話する前に、自分の都合の良い日時を3つ程度リストアップしておく ○対象者の都合を確認し、日時を決定する ○家族への電話の場合、支援対象者に会いたい希望を伝えておく ○新生児であれば、退院日、母乳（ミルク）の飲み具合、母子の体調、母子の心配事などについての追加情報を得る	○初期の段階における電話対応について、指導する ・留守の場合や断られた場合の対応が考えられるように、電話対応のロールプレイをしておく（プリセプターが本人・家族の役になり、種々の場合を想定する） ・新人保健師が訪問対象者に初めて電話する場合は、側で見守り、必要時には助言する ・新人の電話対応について、早い段階で気になる点について助言する ○追加情報を得て訪問計画を修正した場合、報告を求め、必要時助言する
4 事前準備 (1) 訪問場所を確認する (2) 出発時間を確認する ○余裕を持って到着するようにする ・やむを得ず遅れる場合は、課に連絡し、	○初期の段階では、訪問ルートや所要時間等について助言する ・場所と経路を一緒に確認し、目印となる建物や道路事業・交通機関情報等の情報収集の方法について助言する ・事例によっては訪問先でなく、他の場所に駐車したほうが

手順	指導時の留意点
訪問先に電話をしてもらう。 (3) 必要物品を準備する ○目的に応じた必要な物品と訪問かばん ○目的に応じた必要な資料・媒体 ○基本的な私物（身分証明証・運転免許証・財布・携帯電話など） (4) 名刺や連絡票を準備する	良い場合もあることや駐車場等について具体的な助言を行う ・服装は、ＴＰＯを考え、活動的で相手に不快を抱かせず訪問先の相手の状況を考えたものとなるよう、助言する
5　訪問の実施 (1) 出発する ○目的や対象に応じた服装を整える ○訪問場所・訪問の目的と計画・準備物品を再確認する ○プリセプターや同僚保健師等に出かける旨を報告する	○単独訪問の場合 ・余裕を持って準備できているか確認する ・緊張を和らげるよう声かけをする
(2) 訪問先で挨拶をする ○所属・氏名を明瞭に名乗り、自己紹介する ○訪問の目的を明確に伝える ○相手を確認する ○留守の場合は、訪問目的と連絡先を書いた名刺、又は連絡票を郵便受けや玄関ドア内側などに入れる	○挨拶やコミュニケーションの様子を見守る ・他人の家に初めて入ることを考慮し玄関先であいさつをし、靴は揃えてから上がること ・頭の先から足の先まで相手は見ていることに注意を払うこと ・相手を尊重した誠実な態度であるか ・明瞭な言葉遣いをしているか ・アイコンタクトやペーシング※など傾聴のスキルを活用しているか ※対象者に合わせた声のトーンや話し方等のコミュニケーションスキル
(3) 目的・状況に応じた展開を実施する ○誠実な態度で相手の話を傾聴する ○生活の場で収集した新たな情報を基に、再アセスメント及び計画の修正をその場で行う ○対象に応じて身体計測・療養相談・生活指導などを実施する ○必要に応じて社会資源の情報を提供 ○不安や疑問が解消、又は軽減したかを確	○振り返りを行い、必要な場合はロールプレイを再度行い、次回訪問に向けて自己の課題を明確にする ○計測・観察等の技術の実施状況を確認する ・血圧や体重測定の技術 ・面接の中での身体的・心理的・社会的な観察や住環境のアセスメント ○相談の技術の発達を促す ・カウンセリングやコーチングなどコミュニケーションスキルを活用した面接技術は、プリセプターが実施し、見せる

手順	指導時の留意点
認する ○継続支援の必要性を判断し、対象と相談する ＊面接相談の技術 ○対象者が安心して話に集中できる環境を設定する ○誠実な態度で話を聞き、傾聴や共感的理解に努める ○個人・家族の考え方や生活スタイルを尊重する ○個人･家族自らが自分の健康課題に気づき、解決に向けて主体的に取り組むように働きかける ○対象者はもちろんのこと、そのほかの同居家族がいたら注意を払う。例えば、母子の訪問に行ってその祖父母が同居していれば母子のみだけでなく、その母子を支える家族の協力の度合いや健康管理も注意を払う **6　報告と記録** (1) 要点をプリセプターとともに上司に報告する ・出会えた人 ・要した時間 ・支援内容と対象の反応 ・計測値などの結果 ・今後の予定など (2) 記録を行う ・記録の様式は各課によって異なるため確認する。 ○訪問前 ・情報 ・アセスメントの総括と健康課題 ・訪問計画 ・必要な関係機関との連絡内容	・うまくいかなかった場合は、その状況を再現し、相手の立場に立って考える事を促す ○実施後の振り返りの際、良い点を褒め、新人保健師に感想や観察したことを語らせた後、指導者が得た情報や判断内容、その理由を新人保健師に伝える ○まず慰労し、訪問後の報告と感想を聞き、必要な内容が報告されているか確認する ・今後の予定の判断については、対象者の意思を確認する ・支援実施内容を確認し、支援を行うに至ったアセスメントの経過を確認する ○上手くいかなかった事例の場合や対応に困った事例の場合には、必要であれば別室で話を聞く ○記録内容を確認し、必要時に助言する ・事実が客観的に記録されているか ・必要事項が見やすく記載されているか ・アセスメントや評価・考察などが記載されているか

手順	指導時の留意点
○訪問後 ・訪問者と時間 ・被訪問者の状況 ・訪問場面の状況 ・対象者のアセスメントと健康課題 ・支援内容と個人・家族の反応 ・健康課題に対する支援結果と残された課題 ・必要な関係機関との連絡内容 ・次回訪問の必要性と時期	
7　事後処理 (1) 物品の整理 (2) 必要時に対象者への連絡・情報提供 (3) 健康課題により、他の専門職につなぐ (4) 関係機関との連携 ○訪問前 ・必要時、情報を収集する ○訪問後 ・結果を報告するとともに、今後の予定を確認する	○関係機関との連携の実際について、プリセプターの電話対応を意図的に聞かせ、ミニ・ロールプレイをするなど、対応を具体的に助言する ○電話だけでなく、関係機関の近くに出向いた機会を活用して直接関係者と話す重要性を伝える
8　地区管理 ○訪問ケースの管理台帳（各課で使用しているものを確認）を作成する ○月間計画 ○関係者・関係機関マップを作成する	○担当地区の関係機関やキーパーソンの情報などをまとめるよう助言する ・訪問者宅が記載された地図など、個人情報の管理に注意するよう促す ○プリセプターが毎月家庭訪問の進捗管理を行う
9　ケースカンファレンス・事例検討会 ○継続訪問した事例をまとめる ・健康課題 ・支援目標 ・支援経過と結果 ・評価・考察の要約 ・事例紹介に必要な最低限の情報	○プレゼンテーションと討議により、対象者の理解や支援方法の知識を深めるとともに、家庭訪問への意欲を高める ○保健師同士で見せ合うことにより工夫や入手したい情報を相互に学ぶ機会とする

【家庭訪問のチェックリスト】

氏名（　　）

◎：一人でできる　　○：支援があればできる

目標達成期間：入職後６か月～１年

確認事項	評価 月日	自己 評価	プリセプター
①担当地区の訪問対象者を把握することができる			
②訪問の優先順位を考えることができる			
③訪問対象となった背景や法的根拠を説明できる			
④訪問日時を調整し、設定できる			
⑤対象にあわせた必要物品を整えることができる			
⑥健康課題を見出し、訪問計画を立案することができる			
⑦訪問目的の主たる対象者に直接会うことができる			
⑧安全な方法で支援技術を提供できる			
⑨家庭環境の観察や相談内容によって､訪問計画を修正できる			
⑩個人・家族と信頼関係を築くことができる			
⑪生活者としての価値観や信念を尊重することができる			
⑫個人・家族の持つ力を引き出すことができる			
⑬個人・家族が活用可能な社会資源の情報を提供できる			
⑭健康課題の解決に向け、主体性を尊重した援助ができる			
⑮具体的かつ客観的に記録を書くことができる			
⑯必要に応じて関係機関と連携することができる			
⑰訪問結果及び支援経過を正確かつ迅速に報告できる			
⑱個別支援から集団や地域をみる視点を持つことができる			
⑲単独で継続訪問できる			
⑳困ったときにはプリセプターの助力を求めることができる			
㉑継続訪問した事例のサマリーを作成し、自己の課題についてプレゼンテーションができる			
コメント（今後のアドバイスなど）			

１　対人支援活動

１－２　集団への支援

「健康教育」技術指導方法

【到達目標】：集団の特性を把握し、指導を受けながら支援できる

【到達までの期間】：６か月～１年

【行動目標】

・集団の身体的・精神的・社会文化的・生活環境の側面から情報を収集し、アセスメントをすることができる

・目的、法的根拠を説明できる

・対象者の把握と周知を行うことができる

・集団の特性に応じた健康教育の計画案・資料の作成、評価指標の設定ができる

・参加者同士の交流や行動変容を意識した運営が実施できる

・個別支援や関係機関との連携を組み合わせた効果的な支援ができる

・集団健康教育を通して、個別、集団、地域をみる視点を持つことができる

・集団健康教育を通して、住民や集団の持つ力を知り、ソーシャルキャピタルの醸成を意識することができる

・実施後の評価を行うことができる

研修方法　（本人）

内容	担当者	具体的な方法
事前学習	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・基礎教育での知識と技術の確認を行う（地域看護実習の際の訪問対象や見学等の経験について確認)。 ・所属課内で行っている健康教育の概要を学ぶ。
見学	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・保健師が行う集団教育に参加し、参加者の反応や保健師の対応を見学する。 ・何らかの役割（タイムキーパー等）を持って参加する 【学習内容】 ・教育の目的を確認 ・対象者の選定と周知方法 ・健康教育の運営方法
企画案の作成	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・健康教育の計画を立てる 【学習内容】 ・対象者数や対象者の特性、収集した情報のアセスメント、健康課題を把握したうえで、健康教育を行う目的や目標、講師選定、周知方法、運営方法（予算執行を含む)、評価方法といった一連の過程を含んだ計画書を作成し、プリセプターや同僚保健師等の助言を得る
事前準備	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・講師依頼、物品購入等を行う 【学習内容】 ・新人保健師が講師となる場合は、具体的な教育案を作成し、プリセプターや同僚保健師等から助言を得る ・外部講師を依頼する場合は、事前に講師へ研修目的や対象者、当日の講義で依頼したい点、報償費等などを連絡した上で、正式に依頼する ・運営上必要な物品がある場合は、所定の手順に沿って購入する
デモンストレーション	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・デモンストレーションを行い、プリセプター等からアドバイスを受ける 【学習内容】 ・当日用いる資料、物品、会場レイアウト等を想定したデモンストレーションを行い、具体的なアドバイスを受け、必要に応じて内容を改善する

内容	担当者	具体的な方法
実施	プリセプター （同僚保健師）	・健康教育を実施する 【学習内容】 ・教育案に沿った健康教育を実施する ・必要に応じて関係機関への連絡や個別支援を実施する（同日または別日程） ・口頭で上司へ実施報告し、アンケート集計、実施記録を作成する ・報償費等の支払いを行う
振り返り	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・準備、実施、事後処理のプロセスを振り返り、助言を得る 【学習内容】 ・運営上、想定外の出来事があった場合の対処法など
評価	プリセプター 同僚保健師（事業担当者）	・個別面接を行う 【学習内容】 ・デモンストレーション後、単独実施後に実施する

指導手順と留意点(プリセプター)

手順	指導時の留意点
事前準備	・なるべく定例化させている教室等を選んで、単独で運営できるよう技術の習得を目指す ・見学参加では、新人保健師にも何らかの役割を担当させ、集団健康教育の雰囲気や楽しさが体感できるよう配慮する ・新人保健師の学習状況の確認 集団教育の技術
1　対象者の把握 (1) 健康教育の対象者を把握する ・各種届出や既存資料により対象者リストを確認する (2) 対象者の優先順位を判断する ・対象となった背景を把握する	・対象者を把握する方法について知識を確認する ・対象者の身体的・精神的・社会文化的・生活環境の側面から情報を収集し、アセスメントできるよう、支援する ・優先順位がわからない場合はプリセプターに相談するように伝えておく ・優先順位の判断に関する根拠を確認する 教育の目的により、対象とする個人、年齢層、性別、地区が異なっていることを理解する
2　健康教育実施計画書の作成	・地域の課題や日頃の業務、各種計画において掲げてい

手順	指導時の留意点
・対象特性（健康課題）、目的、目標、講師、周知、運営（開催場所や日時、必要物品、担当者及び役割）、評価の過程を含んだ計画書を作成する	る施策の方向性などを踏まえ、今回の目的を明確にする
＊健康教育の目的を明確にする	
＊目的に合わせた講師を選定する	・講師選定方法がわからない場合は相談するよう伝えておく
＊対象に合わせた周知方法を検討する	・対象者によって効果的な周知方法が異なることを踏まえ職場内外の関係者に相談するよう伝えておく
＊対象に合わせた日時､運営方法(支出見込み含む)を検討する	・対象者によって参加しやすい日時、運営方法があることを踏まえ、関係者への相談や運営方法の参考資料等の入手方法を伝えておく
3　事前準備	・講師との連絡の取り方、事前打ち合わせ、正式な依頼文の送付など具体的にアドバイスする
・講師との事前調整、依頼を行う	・教育案のレイアウトを示し、参考資料の入手法等を伝える
・具体的な教育案を作成し、プリセプター等から助言を得る	・年齢等、対象の特性を考慮しているか確認する
・運営上必要な物品がある場合は購入する	・既存の資料を用いる場合、個別性の付加が必要か否かを確認する
	・予算の見方を説明し、支出計画、支出の流れを具体的にアドバイスする
4　デモンストレーション	・目的や対象者に合った資料となっているか確認する
・デモンストレーションを行い、改善点等の確認を行う	・物品、会場レイアウト、教育の流れや留意点は適切か
・当日用いる資料、物品、会場レイアウト等を想定して実施する	・想定される質問等への対応方法を確認する
	・想定外の事態が起こった時の対処方法を確認する
5　実施	・新人保健師の緊張を和らげる言葉かけを行う
・自己紹介をする	・プリセプターや同僚保健師が同席し、見守る
・目的を説明し、参加者との共通理解を得る	・想定外の事態が生じ、新人保健師が対応できない場合はフォローする
・参加者の参加動機や目的などを確認する	・新人保健師の緊張が大きく、参加者自身も不安な様子になっている場合は、場を和ませる配慮を行う
・教育案に沿って進める	・新人保健師の良い点、改善点を確認する
・アンケートの実施、次回予定の説明	・関係機関への連絡や個別支援の計画調整を近くで見守
・必要に応じて関係機関への連絡や個別支援を行う	
・終了後、口頭で上司に報告する	

手順	指導時の留意点
・報告書を作成する ・報酬費等の支払いを行う	り、必要に応じて助言・フォローする ・報告書の要点をあらかじめ助言しておく ・支出の一連の流れを一緒に行う
6　振り返り ・準備、実施、事後処理の一連のプロセスを振り返り、プリセプター等から助言を得る	・よかった点、改善点など具体的にアドバイスする。特に想定外の出来事があった場合は、その具体的な対処法について助言する ・対象の反応、理解度、アンケート結果のまとめ方や評価について助言する ・住民や集団のもつ力を知り、教育の楽しさやソーシャルキャピタルの醸成を意識することができるような振り返りとする ・次回にどのような計画で進めていくか助言する

２　地域支援活動

２－１　地域診断・地区活動

「地域診断」技術指導方法

地域診断は、保健師活動の基盤であるが、新人保健師の到達目標とその達成目安等を考慮した結果、保健師活動に関する技術指導例としては、アセスメント過程のみを記載するものとした。

【到達目標】: 指導を受けながら、担当地区の情報を収集・分析し、健康課題を明確化できる

【到達までの期間】: ２か月～１年

【保健師活動に関する技術を支える要素】

・疫学の方法論を説明できる

・各種保健統計の意味を理解して地域診断に活用できる

・保健師が行う地域診断の目的が理解できる

・地区踏査を行い、地域の概要を把握できる

・地域の基本構造をアセスメントする視点を理解し、身体的・精神的・社会文化的・環境的な基本データを説明できる

（・人口静態、構造（家族を含む）
・人口動態・経済、政治、教育、コミュニケーション、運輸、安全など
・保健医療福祉システム
・自然環境、地理的環境
・歴史・価値規範）

・地域における対象者の健康状態をアセスメントするための身体的・精神的・社会文化的・環境的な基本的データを説明し、その所在がわかる

（・全般的健康指標
・母子保健データ　・成人保健データ　・高齢者保健データ　・感染症関連データ
・保健行動　・保健意識に関するデータ）

・地域の既存の一次データ、二次データを収集し、比較分析できる

・地域の保健師活動から得られた質的データをアセスメントに活用できる

・対象者の声を聞き、アセスメントに活用できる

・地域全体を捉え、健康のアセスメントができる

研修方法　（本人）

内容	担当者	具体的な方法
事前学習	プリセプター	・基礎教育での知識と技術の確認を行う 【学習内容】 ・保健統計の意味とデータ分析、疫学方法論 ・地域診断方法論（目的、質的・量的データ収集と分析）などの講義と演習を行い、地域診断のための基礎的知識を確認する ・より実際的な理解を深めるため、所属組織の保健計画とデータに基づく地域診断の討論などの講義・演習を行う
実施	プリセプター 同僚保健師	【学習内容】 ・担当する地域を対象に地域診断を実施する
評価	プリセプター	【学習内容】 ・自己分析を進め、分析結果を課内等で報告・情報共有する場を設定する ・分析結果を担当事業に活用するよう助言する

指導手順と留意点(プリセプター)

手順	指導時の留意点
1　準備	○新人保健師の保健師教育での学習状況を確認する ・地域診断の知識、理解度、実習での実施の程度を把握する
2　実施 (1) 地区踏査によって概要を把握する ○担当地区の概要を把握する ①活動を通じての地区踏査を実施する ②保健事業と関連付けて地域診断の目的を理解する ③地図に観察事項及び収集したデータを記載する ④レポートを作成し、プリセプターに観察事項を報告する ⑤プリセプターからフィードバックを受ける	○日常的に実施する保健師活動を基盤にした地域診断から行い、無理なく地域に入っていくことを大切にする ・意図的に地域の背景を伝える ・指導者の視点による地域の観察点を言葉で伝え、確認する ・多様な地区に保健事業や家庭訪問等で出向き、地域の多様性・多面性と特性に気づく機会を提供する ・新人保健師の主体的な学びをサポートする ・保健事業と関連させて、地区を深く理解することの目的と意義を考えるよう促す ・新人の気づきを伸ばすよう指導する

手順	指導時の留意点
＊地区踏査の視点の例 ・歴史　・人口 ・価値観と信念　・民族性 ・行動　・保健医療と福祉 ・物理的環境　・安全と交通 ・経済　・政治と行政 ・教育　・レクリエーション ・コミュニケーション、情報	
(2) 基本となる既存データから地域の実態を理解する	○基本的な客観的データを用いた地域アセスメントを行う
①既存データの所在を把握する ・既存データを担当者から入手する ・保管場所、検索先を把握する	
②人口静態、人口動態データから地域のアセスメントを実施する ・人口静態データ（総人口、性、年齢別人口、家族構成）、人口動態データ（死亡、出生、婚姻、離婚）について把握する ・データの出所と算出方法を理解する ・経年的にデータを収集する ・動向を見て、データを判断する	○人口静態、人口動態データが基本出ることを理解する ・人口動態データ等 ・データの算出方法から、データの特性を理解しているか確認する
③地域の人々を理解するためのデータのアセスメントを実施する ・地域の歴史を調査する ・地域の文化を調査する ④地域の地理的な自然環境のアセスメントを実施する ・地理的な特徴を調査する ・自然環境を調査する ⑤地域の社会文化状況のアセスメントを実施する ・経済状況　・行政組織と財政 ・交通　・安全・教育 ・地域関係（コミュニケーション）	③～⑤については、地域を大まかに見て、概要を理解することを目的とし、詳細なデータを要求せず、広い視野で地域をみるように助言する ○地域保健計画や総合計画等を活用する ・地理的な自然環境等の要素は、人々の健康の背景であり、健康問題の原因、又は解決のための資源であることを理解できるよう助言する ○所属組織の意思決定や財政状況を理解できるよう助言する
⑥地域の保健医療福祉システムのアセスメントを実施する	○関係機関を理解するよう促す ・地域の資源の過不足ではなく、どのような組織機関

手順	指導時の留意点
・医療機関　　・保健機関 ・福祉機関　　・健康保険　　等 ⑦地域の健康状態の概要のアセスメントを実施する ＜地域の健康水準について＞ ・平均寿命　　・年齢調整死亡率 ・合計特殊出生率　　等 ＜地域の疾病構造について＞ ・死因別死亡率　・受療率 ・健康保険データ　　等 ＜基本となる母子保健データについて＞ ・出生数（率）　・低体重児出生数（率） ・乳児死亡率　　・乳幼児健康診査結果　等 ＜基本となる成人保健データについて＞ ・特定健康診査データ（生活習慣病）　等 ＜基本となる高齢者の保健データについて＞ ・介護保険データ（要介護度）　　等 ＜感染症関連データについて＞ ・結核　　・予防接種率 ・感染症発生動向調査週報 ・インフルエンザ様疾患発生報告 （学校欠席者数）　　等 (3) 活動を通して対象者の声を活用した地域のアセスメントを実施する ○前述(2)のアセスメント結果に保健師活動を通して把握した対象者の情報等を付け加えてアセスメントを実施する (4) 他の地域との比較を行い、地域の特性のアセスメントを実施する ○前述(2)(3)のアセスメント結果を近隣の地域、保健所、都道府県、国のデータと比較し、対象とした地域の実態を対象的に位置付け、データの判断を行う	があるのか、またどのような事業を実施しているのかについて知ることを重視する ・実際に連携している機関を把握する ○所属機関が担っている対象の健康状態を全体的に理解することに重点を置いて指導する ・データの算出方法等の基礎知識を確認しデータが示す内容を理解できるように指導する ○質的なデータをアセスメントする際、対象者の生の意見を活用するよう指導する ○量的データ及び質的なデータの判断を統合して行えるよう指導する ○訪問や健康診査等で出会った対象者からの意見を大切にすることで、地域の健康課題に結び付くことを理解できるように指導する ○日常的な保健師活動における感受性を磨くことの大切さに気づけるように指導する ○客観的なデータを判断できるよう指導する ・データの判断基準を理解する ・所属機関が担っている対象の健康状態を判断する ＊特に、業務分担制をとる機関においては、色々の分野から見た地域の特徴を踏まえ、統合的に地域アセスメントを行う視点が必要である

【地域診断におけるアセスメントのチェックリスト】

氏名（　　）

◎：一人でできる　　○：支援があればできる

目標達成期間：入職後２か月～１年

確認事項	評価 月日	自己 評価	プリセプター
①疫学の方法論を説明できる			
②各種保健統計の意味を理解して、算出方法を説明できる			
③保健師が行う地域診断の目的を説明できる			
④地区踏査の方法と視点を説明できる			
⑤担当地区の地区踏査ができる			
⑥地域の基本構造をアセスメントする視点を説明できる			
⑦地域の基本構造をアセスメントするための、身体的・精神的・社会文化的・環境的な基本的なデータを説明できる			
⑧地域の健康状態をアセスメントするための、身体的・精神的・社会文化的な基本的なデータを説明できる			
⑨地域をアセスメントするためのデータの所在を説明できる			
⑩地域の人口静態データ、人口動態データを経年的に収集し、判断できる			
⑪地域の人々を理解するためのデータのアセスメントができる			
⑫地域の地理的自然環境をアセスメントできる			
⑬地域の社会文化的状況をアセスメントできる			
⑭地域の保健医療福祉システムをアセスメントできる			
⑮地域の健康水準をアセスメントできる			
⑯地域の疾病構造をアセスメントできる			
⑰地域の基本となる母子保健データのアセスメントができる			
⑱地域の基本となる成人保健データのアセスメントができる			
⑲地域の基本となる高齢者の健康データのアセスメントができる			
⑳地域の基本となる感染症関連データのアセスメントができる			
㉑活動を通しての対象者の意見を活用した地域のアセスメントができる			
㉒近隣の地域、保健所、都道府県、国のデータと比較して、地域の健康状態を判断できる			
コメント（今後のアドバイスなど）			

採用1年目保健師の新任期保健師育成計画書（記載例）

別紙2

期間：　　年　　月　～　　年　　月

☆事業担当業務　〇業務
※対象事業の中で新任期の業務分担と合致する項目がある場合に☆で記入すること

名前（　　）　プリセプター（　　）　メンター（　　）

保健師の活動領域	新任期保健師に求められる能力	到達目標（全課共通）	個人目標（母子保健の例）	対象事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1-1 個人及び家族への支援	・個人及び家族の健康と生活について情報収集、アセスメントを実施し、健康課題解決のための支援計画を作成できる。 ・個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援を指導を受けながら実践できる ・支援に必要な資源を把握できる。	②健康課題について必要な情報を収集、アセスメントを行い、支援計画を立案することができる。	①指導のもと、必要な情報を収集、アセスメントを行い、支援計画を立案することができる。 ②必要な情報の収集、アセスメントを行い、支援計画を立案をすることができる。		〇先輩の訪問に同行を実施 〇窓口業務の見学	〇先輩の同行のもと主体的に訪問を実施する	①指導のもと、必要な情報を収集、アセスメントを行い、支援計画を立案することができる。									
1-2 集団への支援	集団の特性を把握し、指導を受けながら支援できる。	集団の特性に合わせた健康教育の指導案を作成し、指導を受けながら実施することができる。	指導のもと、健康教育の指導案を作成し、実施することができる。			〇事業の見学	〇先輩の指導のもと、集団指導を実施し、振り返りを行う	〇集団指導を実施する際に必要な知識等について自主学習や研修に参加するなどし、自己研鑽を行う。			〇主体的に考え、見守りのもと、集団指導を実施することができる。					
2-1 地域診断・地区活動	指導を受けながら、担当地区の情報を収集・分析し、健康課題を明確化できる。	①地区の情報を収集・整理して、地区診断に活用できる。	①保健統計資料や地域資源等の情報収集をして地区診断をする。 ②地区の健康課題を踏まえて保健師活動を実施する。		〇地区の既存情報収集し整理する		〇地区に行き地域の資源を知る 〇保健事業で対象者の声を聴く			〇集めた情報からアセスメントする 必要時先輩保健師に確認する			〇地区の健康課題が挙げられる	〇健康課題を踏まえた地区活動を先輩の見守りのもとで実践してみる		
2-2 地域組織活動	地域特性を理解し、住民と共に活動できる。 多様な地域組織の役割や関係性について把握できる。	地区にある市民団体や組織とその役割について知る	①地区にある市民団体や組織とその役割について知る		〇地区の市民活動団体の活動や組織について調べる				〇活動現場を見学させてもらう				〇地区組織、社会資源情報等をまとめる			
2-3 ケアシステムの構築	担当地区の各種サービスとその関係性を理解し、指導を受けながら担当事例に必要なサービスを活用できる。	支援に必要な社会資源について情報法収集し、提供することができる。	①担当地区の情報を収集し、情報提供を行う。 ②担当地区の資源を見に行ってみる。						①担当地区の情報を収集し、情報提供を行う。							②担当地区の資源を見に行ってみる。
3-1 事業化・施策化	・所属自治体の施策体系や財政のしくみについて理解できる。 ・担当事業の法的根拠や関連政策について理解し事業を実施できる。	担当事業の法的根拠や関連する計画、要綱、要領等を理解し事業を実施できる。	①要綱、要領を確認する。 ②担当業務予算を知り、予算を意識しながら業務を行うことができる。		〇担当業務に必要な専門的知識の習得をする（通年）	〇自分の担当している業務の要綱、要領を確認し、必要時先輩に確認する。 〇担当業務の目的を理解し事業を実施する	〇先輩保健師と自分の担当事業の予算を確認する。 〇自分の行動を振返り、次の事業実施に活かせることができる				〇担当業務について自分の意見が言える					〇担当業務の円滑な運営、業務整理ができる
4-1 健康危機発生時の対応	・関係法規や健康危機管理計画及び対応マニュアルを理解できる。 ・健康危機に備えた住民教育を指導を受けながら行うことができる。	①計画やマニュアルを読み内容を把握し、自分の役割がわかる	①災害時保健師マニュアルを読み、不明な点は先輩保健師に確認する。 ②災害部会の研修会に参加する。		災害部会の活動について説明を受ける	災害時保健師活動マニュアルの風水害の部分のを確認し、自分の役割について考えておく。				災害時保健師活動マニュアル全体の内容を確認し、不明点は先輩等に確認する。						
4-2 健康危機発生時の対応	・健康危機発生後、必要な対応を指導者の指示のもと実施できる。 ・現状を把握し、情報を整理し、上司に報告する事ができる。	・健康危機への対応を理解し、説明することができる。 ・実施した業務の経過や課題等を上司に報告、相談できる。	①アクションカードやマニュアル等を確認し、災害発生時の集合場所や自分の役割等を理解し、説明することができる。 ②実施した業務の経過や課題などを上司に報告、相談できる。							実施した業務の経過や課題などを上司に報告、相談できる。	アクションカードを確認し、発災直後の動きについて確認しておく。					災害発生時の集合場所や想定される自分の役割等を説明することができる。
5-1 PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	・PDCAサイクルに基づく事業評価方法を理解できる。 ・担当する事例に係る評価結果に基づき支援方法の見直しができる。	①担当事業についてPDCAサイクルに基づき整理する ②健康課題の解決のための活動の評価を行うことができる	①担当事業についてPDCAサイクルで整理する。 ②指導のもと、担当事例への支援を振り返る。				①県の保健師研修にて担当事業をPDCAサイクルで整理する			②指導のもと、担当事例への支援を振り返る。						
5-2 情報管理	組織における情報管理に係る基本指針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理できる。 ・保健活動上知り得た個人情報を適切に取り扱うことができる。 ・業務の記録を適切に行い関係者への情報伝達ができる。	①研修参加やマニュアル等の確認を通して、担当事業で得た情報を適切に管理する ②担当事業の記録、報告、管理を適切に行うことができる。	①情報管理に関する庁内研修に参加する ②指導のもと、わかりやすい記録を書く、記録や情報の報告、管理を行う。		①情報管理に関する庁内研修に参加する											
					②指導のもと、わかりやすい記録を書く、記録や情報の報告、管理を行う。											
5-3 人材育成	組織の人材育成方針及び保健師の人材育成計画を理解できる。 ・自己の成長を振り返り、次の成長につなげることができる。	①指針やガイドライン等を読み、内容を理解する ②専門性面接を通して、ラダーに応じた保健師の役割を理解し、自己を振り返ることができる	①保健活動に関する指針やガイドライン、育成の手引き等を読み、不明な点は先輩に確認する。 ②専門性面接を通して、自己の振り返りを行う。		①人材育成部会、新任期育成の手引きの説明を受ける	②ラダーを確認しながら、専門性面接の期首目標を立てる	①保健活動に関する指針等を確認する。			②専門性面接（中間）を受ける				②専門性面接（期末）を受ける		
6 保健師の活動基盤	根拠に基づく保健活動を実施するため、実施した保健活動の記録を適切に行うことができる。	①担当する事業の根拠となる法律や条例、計画等を理解する。 ②支援の経過及び結果を正確に迅速に記録し、課題等を上司に報告・相談できる。	①担当事業に関連する法律や条例、計画等を理解できる。 ②上司や同僚が見ても対応状況がわかるように、記録することができる。			①担当事業に関連する法律や条例、計画等を理解できる。										
						②上司や同僚が見ても対応状況がわかるように、記録することができる。										
7 その他	①保健師専門研修（階層別） ②庁内保健師活動連絡会	①研修目的を理解したうえで、参加できる。 ②庁内保健師活動連絡会の目的を理解できる。	①研修目的を理解したうえで、参加できる。 ②保健師活動連絡会の実際を知る。		①②についてレクチャーを受ける。	②庁内保健師活動連絡会に参加。	①研修目的を理解し参加する。（県前期研修）			②庁内保健師活動連絡会（部会）に参加。		②庁内保健師活動連絡会に参加。		①研修目的を理解し参加する。（県後期研修）		

策定経過

令和５年（２０２３年）４月作成

令和７年（２０２５年）４月改訂

茅ヶ崎市新任期保健師（１年目）育成の手引き

発行日：令和７年（２０２５年）４月

発　行：茅ヶ崎市庁内保健師活動連絡会

〒２５３－８６６０　茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目８番７号

ＴＥＬ　０４６７－８５－１１７１

ＦＡＸ　０４６７－８２－０５０１